

前衛

座談会

東京都議選でかちとった歴史的勝利

白石たみお／曾根はじめ／田辺良彦／原のり子／米倉春奈

対談

「赤木ファイル」は何を明らかにしたか 宮本岳志／辰巳孝太郎
国民不在と悪政の突撃隊——日本維新の会 小松公生
「イージス・システム搭載艦」計画は中止以外にない 穀田恵一

特集

家族介護が問う介護の今 津止正敏／斎藤真緒／児玉真美

座談会

コロナ禍の労働と惨事便乗型の「働かせ方」改革 藤田 実
建設アスベスト訴訟最高裁判決を勝ち取ったたたかい

特集

戦場と銃後の体験 日中戦争 笠原十九司／民衆と社会 大串潤児

座談会

東京都議選でかちとった歴史的勝利

総選挙での躍進、市民と野党共闘成功で新しい政権実現を

出席者

白石たみお (都議、品川区)

曾根はじめ (都議、北区)

田辺良彦 (党都委員長)

原のり子 (都議、北多摩四区)

米倉春奈 (都議、豊島区)

(あいうえお順)

「当選でよかった」で終わらない——要求実現求めるステージに

米倉 朝、駅頭で当選の報告をしていると、ガッツポーズしていく人や「おめでとう」「良かったね」と声をかけていく人が何人もいます。選挙結果のチラシを四〇代のサラリーマン風の人が結構受け取ることも目立っていて、どうしてだろうかとも思っています。もう一つは、選挙中

に、「力を貸してください」と意識的に発信して、区内の人、区外の人が手伝いにきてくれて、新しいつながりがたくさんできました。子どものころに虐待を受けていたという方は開票速報を選挙事務所で見られていて一緒に万歳するとか、そういう人たちがすごく喜んでくれたことが印象的でした。

曾根 「東京五輪はやめてコロナ対策に集中を」と訴えましたが、選挙後、区内をあいさつで回っているときも、駅頭宣伝している、「オリンピックをなんとかやめさせ



よねくら・はるなさん

て」という声がかかりました。北区でもみんなオリンピック中止はあきらめていません。それくらい事態が悪化しているのがみ

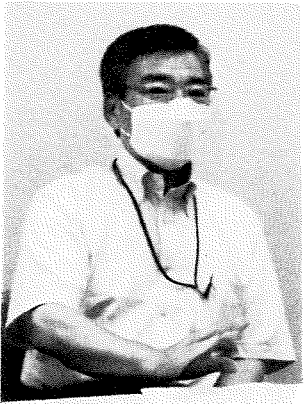
んなわかっていくからです。今回の選挙で、維新の会は、都営住宅や都立病院、水道事業の民営化を政策に掲げてきたので、この点は徹底的に批判して、都営の団地では「維新の都営住宅の民間売却の政策には気をつけてください」と訴えたのですが、都営住宅にいくと、「良かったね、曽根さん。都営住宅売っちゃだめよ」という声がかかりました。私たちが打ち出した政策的な争点にすごい反応があった選挙だったと感じます。私たちがかけた政策の実現を本当に求めていますし、切実な声寄せられていますから、それらの課題解決へ、これからの私たちの活動が非常に重要になります。

白石 私の「当確」が出たのは共産党では一九番目だったので、翌日の「赤旗」紙面にはまにあわず当選一覧に載らなかったもので、「応援していたのに残念でしたね」と言われたりしました。感じたのは、支持・支援してくれた方ですね。

曽根 今回ほど全国からお祝いをいただいたことはありません。九州の小学校時代の友達や、五〇年以上前の友達、大学時代の知り合いなどから、はがきや電話などでお祝いの言葉をいただきました。いままでは都外からのお祝いは二、三〇ですが、今回は三桁きましたから、全然違います。今度の結果が全国的にもいかに重要だったか、あらためて感じます。

【日本共産党の訴えが都民に届いている】

田辺 選挙後、私たちが選挙で掲げ、訴えた中身をほんとうにやってほしいという期待が寄せられていることは特微的です。選挙後も、都民は、東京五輪中止をあきらめていません。各種の世論調査では、開催直前になっても、開催反対が多数です。われわれが都議選で訴えた「東京オリ



そね・はじめさん

ンピックは天災ではないのだからいつでもやめられる」「五輪より命と暮らし最優先」の訴えが都民の気持ちと合っている

の喜び方の質が違うということです。当選して良かったということはもちろんなのですが、例えば、選挙の争点だった「羽田新ルート」を止めたいとがんばっている団体や市民から「会って話したい」など懇談の申し入れがかなり寄せられています。いろいろな団体や個人のみなさんから、要求が強いから、当選したからやってもらえるということ、それだけ思いの強い喜び方をされているということが特徴的です。ツイッターのDMでも反響があり、デザイン関係の仕事をしているという人からボランティアで活動を手伝いたいなど、「当選してよかった」で終わらない反響があります。

原 みんな本当に喜んでいきます。「原さんおめでとう、というより、『みんなおめでとう』『自分の選挙になった』というように、自分たちが当選をかちとったという思いが前回よりも強いと思います。白石さんが言われたように、自分たちの要求を掲げて選挙をやっていますから、それぞれの要求にいらして、「これはやってもらわなければ」とか、「請願を出そうと思ってるんだけど」とさっそくたたき台を持ってきた人もいます。私を橋渡しにしてどうやって要求をやらせようかというステージに行っています。私たちの責任は重大です。さらに、「衆院選で何とかして政治を変えたい。そのために團結してやっていきたい」など、総選挙で政治を変えなきゃという気持ち強いし、届いていることの現れだと思います。選挙後、支持をお願いしていた近所の方が事務所に来て、「都立病院と羽田新ルートの問題ではつきりいつてくれているのは共産党だから一票入れた。自民党支持者の夫もいと言ってくれているので共産党に入りたい」と言いに来てくれました。ほんとうに期待が広がっていることを感じます。投票日の翌日、全国の都道府県の委員長に支援のお礼の電話をする、と、「総選挙に向かってスカツとした勝利、ありがとう」「貴重な経験をさせてもらった」などと言ってもらいました。なにより、市民と野党の共闘を前進させながら日本共産党の議席を増やすことができたことが一番の希望ということが共通して出されました。立憲民主党の方からも、「これで力をあわせれば都議会招集できますね」と言われましたが、自公都ファにたいする一定の勢力になった、地歩を築いたことは非常に重要です。

三回連続前進は半世紀ぶりの歴史的快挙

田辺 日本共産党は都議選で現有の一八議席を確保して一議席増の一九議席へ前進を勝ち取りました。掲げた目標を達成したことは本当に確信になります。あらためて、支持をいただいた都民のみなさん、前進のためにご協力くださった全国・東京支援者のみなさん、読者・後援会



はら・のりこ さん

員・党員のみな
さんに感謝を申
し上げたい。
比較可能な選
挙区の得票率で
みると一四・八
三%から一五・
七九%へ立派な

前進だったと思います。また二人区の文京、日野で新たに議席を獲得して、これで北多摩四区とあわせて三つの二人区で議席を獲得しました。東京のたたかいは、二人区でも議席を争うことは当たり前というステージに向かつて前進しつつある。これも大事な点です。これまでの都議選では、ほかの野党が崩れたりするときに前進するという場合が少なくありませんでした。しかし、今回は、共闘勢力が前進する中で議席を伸ばすことができました。しかも、三回連続前進という半世紀ぶりの歴史的快挙でした。一九六五年、都政が「汚職と腐敗の伏魔殿」と言われる中で都議選で二議席から九議席へ、六九年都議選で一八議席に倍増し、七三年都議選での二四議席へと三回連続前進以来のことです。それ以来、連続して前進することがなかなかできませんでした。今回は、二〇一三年、二〇一七年につづいて前進したわけです。しかも一五議席以上つづけて

一方、自民党は、当初、復調するだろうと本人たちもメディアもいっていましたが、自民党に対する怒りはずっと広がっていったという実感がありません。都民ファーストがある程度の議席を維持したのも、その反映です。自民党は、〇九年の都議選で四八議席から三八議席に後退し、直後の総選挙で政権を失いましたが、今回はそれすら下回る史上二番目に少ない議席数となりました。公明党も四年前より一〇万票も減らしています。

その中で、注目を集めたのが市民と野党の共闘が力を発揮したこと。日本共産党と立憲民主党などは、一人区、二人区、一部の三人区で候補者を調整し、相互支援を行いました。候補者を一本化した選挙区のうち、日本共産党は五、立憲民主党などは八の選挙区で勝利しました。安住国対委員長が共闘は「如実に成果は出ている」「リアルパワーをみないと」と発言し、注目を集めました。市民



しらいし・たみよ さん

のみなさんが、
四月の三つの国
政選挙とともに
に、市民と野党
の力を合わせれ
ば、政治は変え
られるというこ
とを体感できた

三回というのは初めてのことで。

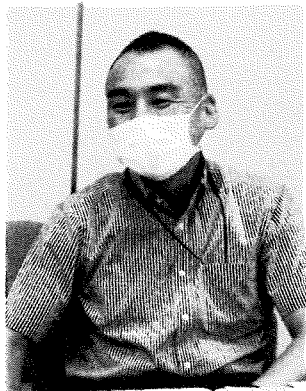
「女性議員の比率は七四%、都議会第一党に」
開票後の記者会見のとき、フリーの記者の方が、後ろに張ってあった当選者の短冊をさして、「男性は五枚しかないですよ」といわれて、思わず志位委員長と顔を見合わせたのですが、一人女性議員が増えて一四人となり、女性議員は都議会第一党になりました。東京新聞の望月衣塑子記者は、「都議選では重要なポイントがありました。それはジェンダーです。共産党は女性候補者を前面に出して戦いました。三一人の立候補者のなかで女性は一八人、実に六割近く。早々とトップ当選を決めた女性候補も四人いました。終わってみれば共産の当選者一九人のうち女性が一人と、七四%を占めました」といって、自民党の男性議員中心には威圧感を感じるとしたうえで、「コロナ禍で多くの国民が大変な状況で求められるのは、威圧感ではなく、弱者に寄り添うソフトなパワーではないでしょうか。いじめ、不登校、フリーターから弁護士になった女性候補者が当選したように、政治家もエリートや強さを強調する時代ではなくになりました。都議選の結果にも、それはよく表れていたのではないのでしょうか」と述べています(AERA dot)。そういう点でも、素晴らしい結果だったと思います。

「苦戦した自公都ファ、市民と野党の共闘が力を発揮」

ことはすごく大きいと思います。都政の流れ、ありようにとつても、政治の流れ全体にとつても大きい結果です。

□対決構図を示し激戦を乗り越える

白石 定数四の品川区は、一位から五位までの差が三五〇票という大激戦でした。前回、私は四位で滑り込んだのですが、五位との差は三六〇票でしたから、今回はそのなかに私と自民、公明、無所属、立憲の有力五人がひしめきあう、横一線というのは品川のためにあるというくらい激戦のなかで、三位で当選し、若干ですが得票率も前回よりも前進しました。とりわけ、自民党と都民ファーストをゼロ議席にしたことは品川にとつても大きな結果でした。これで自民党は、ゼロ議席が二期八年間つづくことになりました。都議選に入る前から、マスメディアが「自公対都ファ」という偽りの対決構図をずっと垂れ流すなかで、「日本共産党対自公都ファ」こそがほんとうの対決構図であることを独自の努力で明らかにできた結果であり、確信にしています。定数四の五つの選挙区で自民、都ファがゼロなのは品川だけです。立憲民主党が議席をとったのも品川だけです。これはなにかということ、「羽田新ルート」の問題です。都ファから出た新人は、「羽田新ルート」の反対派で、品川区の羽田新ルート見直し議論にも入っていたのですが、都ファから立候補したことによつ



たなべ・よしひこさん

「羽田新ルート」に反対しているとはみられなくなっていました。そのなかで、羽田新ルートを固定化するのが自公

都ファへの一票、止める力が日本共産党への一票だと思いつき訴えきったことが、結果に現れたと思います。

曾根 選挙区は定数三の北区です。自、公の現職と維新、都ファの新人と争うことになり、今回ほど心配していただいた選挙はありません。私は、落選を一回経験していますし、年齢が六〇代後半ということで、私の方は相当立ち遅れているという指摘が内外からありました。緊急にいろいろな手立てをとって、インターネットでの作戦も立ててやりましたが、どこまで浸透しているのかよくわかりません。不安要素があって、心配する声が最後の最後までよせられるという状況でした。結果は、得票、得票率とも伸ばして、自民現職に次ぐ二位で、公明党現職を初めて上回りました。選挙戦では、東京オリンピックは中止しコロナ対策に集中をと訴え、共感が広がっていることは感じました。自民、公明は東京五輪には触れずに、公明党は例に

も多くありました。でも、町が冷えているという感じもあって、二極化している感じがしていました。熱烈な反応がたくさん寄せられる一方で、そうじゃない反応もあって、どういう結果になるのだろうか気にかかっていました。そのことが投票率の低さになって現れているのだろうと、選挙が終わってから思いました。希望や展望をもっと知らせていけたらいいんだろうと思います。

原 北多摩四区は、清瀬市、東久留米市の二つの市、定数二の選挙区です。自民新人、都ファの現職と私で二議席を争いました。結果は、自民新人を僅差で上回って得票数、得票率とも伸ばしてトップで当選することができました。今度の選挙はコロナから命を守ることが最大のテーマで、命や暮らしよりもオリンピックを優先してしまうのか、その対決点は鮮明にしました。コロナ危機のもつ地域課題はつきりとみえてきました。私は、二大課題として、自民党都政のもとで廃止された保健所の復活と、都立清瀬小児病院が廃止された後、受け皿の大事な一つの多摩北部医療センターが独法化されようとしているけれど、独法化ではなく充実こそ必要だと訴えました。この二つは地域の命を守る上でカギなのに、そのことを公約しているのは残念ながら私しかいない、押し上げてほしいと訴えました。住民のみなさんは都立清瀬小児病院がなくなった痛みをわかっていますし、それを知らない新しい世代の人

よって、ワクチン接種が遅れているのは共産党など野党が悪いからと、責任を野党になすりつける攻撃をしかけてきました。

米倉 私の豊島区は定数三で、論戦の内容からいえば、日本共産党の私か、その他の候補ということで論戦自体はわかりやすかったですね。前回三位から今回は二位で、得票数も得票率もかなり伸ばすことができました。豊島区では、自民党は二期連続議席ゼロとなりました。共産党は、初めて公明党を上回りました。コロナ対策に集中し東京五輪は中止、都立大塚病院の独立法人化反対と話せば、どちらかの問題で共産党支持になるという感じでした。大塚病院は区境いの端にあるのですが、利用者の四割が豊島区民で、出産との関係では全区的にお世話になっているという人が多く、独立法人化で医療が後退してしまうと話をすると、みんな驚きました。地域で独法化反対の運動をがんばっているのですが、それでもまだ十分には知られていない、独法化の事実とねらいを知ってもらうことが大切でした。選挙で共産党が一生懸命問題にしたことで、「それはひどいわね、応援する」となるので、対話するほど確信も広がりました。前回は、都議選中盤くらいから自民党への批判が強くなり、日に日に共産党ががんばってという波があらかにか来たという感じでした。今回は、「入れましたよ」「がんばって」という声のかりかたはいままでより

も清瀬地域はお産ができる病院がないので、産科・NICU・小児外科の設置など多摩北部医療センターの充実は、反響が大きかったですね。若いお母さんの訴えがみんなの心を動かしました。自民党も、都民ファーストの人も、オリンピックのことも、都立病院のことも、保健所のこともいいませんから、論戦になりませんでした。逆に、まじめな人は、「それなら原さんは落ちるわけがない」と思ってしまうので、それを克服する訴えも大事でした。

□共産党の議席こそという押し出し

白石 低い投票率で得票率と順位をあげたのは非常に大事な結果でした。品川の場合、野党共闘ではありませんので、立憲も羽田新ルート問題を取り上げますから、日本共産党の差別化を図り、どう押しだすか、選挙前から相当緻密に考えました。羽田新ルート見直し議連をつくったりして、日本共産党の白石こそ力になるということを前面に押しだし、都議団としての実績などもふくめて総合されて、「やっぱり日本共産党の白石に」となったことは大きかったと思います。

選挙前に運動団体の人と、こちらからよびかけて積極的に懇談しました。これまで共産党と関係がなく、立憲や公明党の方が力になると思っていた人たちですが、大型開発ではのれんに腕押し状態になっていました。私は都議会では

も大型再開発問題を何度もとりあげてきましたので、たまたまいは終わっていないし、長期戦になること、住民の声にまざるものはない、私は先頭になってやってきたことなどを話しましたが、懇談後に、「希望が見えた」と言われました。そして、街頭演説にもたくさん聴きに来て、声をかけてくれるなどしてくれました。酒販組合の人ともあらためて懇談しましたし、障害者団体と懇談して要望をきいて、都議会で申し入れをセッティングするなどしてきました。そのなかで、運動団体のみなさんが、積極的に共産党の議席は落としてはならないということを理解してくれたことも特徴的だったと思います。それらが当選した後の期待になっているし、議席の重みを感じているところですよ。

米倉 訴えていて明らかにビラのうけとりが良かったのはコロナ対策です。最終盤、ワクチンの確保の見通しが立たなくなっていることがわかってきて、ワクチンと検査が大事だけれども、日本は遅れている、科学にもとづいた対策を強化しないといけないと話をするとばつと手が出るし、こんな話を聞きたかったという感じです。シールボードで青年が対話するので、それに参加すると五輪はやめてほしいという声が圧倒的多数でした。ジェンダー平等と若い女子中高生の性的搾取をなくそうということは、街頭では基本的にずっと訴えつづけてきました。浸透しているという集めたアンケートの声を渡したいって持ってきてくれました。そのアンケートをみて学生たちが、お金がないだけじゃなくて精神的にどんなにつらい思いをしているかがわかって胸がつまりました。これを言わなければだめだと思つて、最終盤、「日常の暮らしをとりもどそう」と呼びかけようと決めたのは、民青の人たちのおかげなんです。いろんな地域での運動があつて、それが選挙活動に反映する、訴えもみんなの思いがくわわつて中身が濃いものになっていく——とにかく今回は、『選挙は生き物』だと思えました。

米倉 演説では、「みんなで変えよう」という訴えにこだわりました。宣伝では、候補者だけでなく、市民のみなさんと一緒に要求をアピールする場をつくり、すごくいい場になりました。病院の街宣は、運動にかかわっている人や住民だけではなくて、大塚病院とは別の病院の看護師の方が、医療現場の忙しさや大変さを語りながら、一方で、ほんとうはこういう医療をしたいし看護師としての役割が発揮したいと思つているという訴えもあつて、この問題が大事で頑張ろうという場になって、足もめっちゃめっちゃ止まりました。初めての試みでしたが、やれてよかったなあと思つています。

□広がった新たな支持

実感はありました。「赤旗」に区外の黨員の方が、選挙のときに友達に電話して支持を訴えるそうですが、性暴力の被害にあつていた方がいて、自分から今度は米倉さんにと話をされたという記事も出ました。

□みんなの思いにそって訴えを充実

原 どうしてもやりたかったのは個人演説会です。本番中に清瀬と東久留米で開きましたが、私のなかでは決定的でした。清瀬は障害者関係や無党派の関係の人たちがセッティングしてくださり、東久留米の方は保育後援会のみなさん中心に準備してくださりました。演説会といつても、私だけが話すのではなくて、一人一人が意見を言うという形です。それがほんとによくつて、みんな真剣で、どうしても勝つために何が足りないかっていう議論をしてくれるわけです。そのなかで、共通して言われたのは、「原さんには、『みなさん』ではなくて、『私に』『あなたに』という感じでよびかけることを大事にしてほしい」ということです。みなさんが自分の選挙としてとりくんでいるんだ、一人ひとりが政治の主人公なんだと、ハツとしました。そこを意識しようと思えました。一人ひとりに訴えることがうまくできたかどうかはわかりませんが、最終盤の演説内容を決める上ではすごく重要でした。うれしかったのはそこに民青同盟の人たちが参加してくれて、フードバンクで

米倉 基本は自民党という地元の保守的な方が菅政権に怒つていて、『自民党にいたくないし、公明党にも入れたくない』と悩んで、最終盤に夫婦で街頭演説を聴きにこられました。五輪と大塚病院の問題でピタッと気持ちがあつたようで、家族会議をして、「今の自民党はまずいので、共産党にいれましょう」ということになったと後で聞きました。

白石 米倉さんが言つたように二極化があつたと思いますが、そういうなかでも、羽田の問題で、パイロット、空港の職員の人など、当事者の方々が羽田新ルートは危険だからなんとか止めてほしいと、直接声をかけてくれて、うれしかったですね。

曾根 そういう流れは感じますね。今回初めて言われたのですが、「共産党とは優しい保守なんだ」と。つまり、守るべきものを守るのは共産党しかないということです。国民的な運動のなかで確立してきた公共のサービスをどんどん削つている中で、それを守ってくれるのは共産党だというわけです。「優しい保守」といった方は、道路問題で壊される地域のお寺の住職さんで、裁判を起こした原告団の団長さんなんです。「共産党がいちばん文化と伝統、歴史の遺産を大事にしてくれている」といわれます。大事な物を守る『優しい保守』の代表のように言われて、そういうことになるんだなあと思つて楽しかったですね。

□反共攻撃に事表示して徹底して反論し打ち破る

白石 ツイッター上をはじめ、選挙中に公明党からものすごい攻撃をうけました。最後には、赤羽国交大臣まで公明党の応援に入り、「公明党は羽田新ルートへの推進派だ」という一部の人がいるが、公明党が大臣に直談判しにいつて、固定化回避の検討会をつくった」と大宣伝しました。

検討会といっても看板だけの名前だけの検討会ですが、公明党の攻撃にたいして、私が公明党の新ルート推進の事実を示して反論しました。最初はだんまりを決め込んでいたのですが、最後はツイッター上でいいわけをはじめました。こちらの土俵で論戦することができたことも、品川としては確信になっています。だんまりを決め込んで論戦に入ってこない状況から、ここまで引張り出してきたことは、市民運動と、二期八年の議会活動がかみあって、それを土台にして訴えることができた、攻めに攻め抜いた選挙戦で、初めての経験です。それくらい実感しているし、今後につながる大事なたたかいでした。

曾根 支持、支援の輪を広げる上で、私の実績や人となりがかかるパンフレットを全戸規模で配布しましたが、相当の影響がありました。私が区議・都議の三十数年にわたる活動の間に区内にあった国立病院が廃止されていくのに反対し拠点病院を守る活動や、水害の再発防止に貢献していると思います。

維新の候補者は、北区に運動員も、政党カーも集中して、最終日には、駅という駅には必ず宣伝部隊がいるほどでしたが、かなり差があいて四位で落選しました。維新候補者は、選挙後にツイッターで、都営住宅の民営化問題でたたかれましたが私は節を曲げない、民営化は必要だと書いています。私は、災害問題とコロナ問題などで都営住宅の臨時提供ができるのは都が直営しているからであって、民営化すればできなくなると訴えましたが、維新候補者は反論できなくて、都営住宅の一部は臨時提供のために残すと言いはじめましたから、これも論戦で決着がついたと思います。

公共の役割とは何かが問われる選挙となりました。総選挙では一・二区の維新の候補者は決まっていますから、その点でも大事な論戦だったと思います。

□「大丈夫」論の克服、幅広い層への訴え

原 私がとても心配だったのは、「大丈夫論」があったことです。二人区ですから大丈夫な人は誰もいないのです。が……。それで、「大丈夫論」はしかけられた攻撃であって、政策的には言えることがないこと、論戦や政策では完全にリードしていることを確信にしようと共有しました。そして、大丈夫と思っている人に「大丈夫ではない」とい

た内容が評判をよびました。国立病院廃止後、北区では、拠点の民間病院が地域に密着の住民の立場にたった医療をすすめています。また、私が現職でなかったときにJR王子駅の近くにおこった二度目の大水害の都の責任を追究し、石神井川の対策がとられたことも紹介しました。この二大テーマでつくったのですが、公明党は、この二つに対して、反共ビラを出してきました。赤羽台にあった国立病院を国が廃止したとき、病院存続の運動が実って二〇〇四年に北社会保険病院が開設されますが、二〇〇九年の社会保険庁解体で病院の存続が危機に陥ります。私は、存続を求めるみなさんと運動を重ね、地域医療振興協会が運営する東京北医療センターへの移行が実現しました。ここは、

コロナ患者の受け入れで、「うちが断ったら北区で受け入れる病院はないから絶対に断りません」とがんばっていて、見直されている病院です。この病院を守ってきたのは誰なのか大論争になりました。社会保険病院の解体を推進したのは、当時、自民党とはじめて組んで与党となった公明党の坂口力厚生大臣のもとでのことです。その解体の第一号とされたのが北区社会保険病院です。この事実を示すと、彼らは何も言えなくなりました。また、水害対策にたいしては、「現職でないときのことを成果にするな」という攻撃までしてきてあきれました。私は八回目の選挙で初めて公明党を上回る得票をえましたから、決着がついた

っても意味はなく、市民の暮らしが大丈夫でなくなっているなかで誰を議員にするか、共産党の議席こそ不可欠だという考え方を共有できたことは大きかったと思います。その一方で、途中で支持をとかく固めよう固めようと内向きにならず、広げていくことで固まってしまうということ、二人区ですから、無党派層とか保守層の人に広がらないと勝てませんから、そのことを大事にしようということも確認しあいました。

ピラも市民が主人公を貫くということで、全部顔写真つきで市民に登場してもらって、党派や立場の違いを超えて応援する、私の要求はこれだというのを出して、最後までそのスタイルで宣伝物も含めて貫くということをやりました。これは前回の教訓だったので最初からこれでやっていたら、何人も電話がきて、結局七〇人ぐらいの人に支持してもらったよ」という人も生まれました。

弁士も市民の方にたくさん登場してもらいました。とくに障害者の関係の方々です。これはチーム共産党都議団の成果なんです。障害者医療費助成制度の拡充を求める長年の地域の運動があつて都議団で話題にして、みんなで議論して厚生委員会ですら白石さんや藤田さんたちが取り上げる、代表質問でとりあげる、私も文書質問や一般質問でとりあげる、という連携で、一歩ずつ前進しました。お母さんた

ちが、これを本当に実らせるために、どうしても二期目に行ってもらわないと困るといつてくれました。すごく感動したのは、今まで絶対に出なかつた人たちが、「私の娘は重度の知的障害者なんです」と言つて演説されるのです。胸を打たれました。みんなその話を聞いて、「あの人がこんながんばっているから私も」と支持拡大もしてくれました。

□真の対決構図示した政治論戦がベースに

田辺 五月までは五輪は争点にならないと言われつづけていたけれども、見事にそれが争点になり問われるたかかになった。途中で、「ここまできたらもう止められぬ」というあきらめの気分が都民の中に広がりました。しかし、「五輪より命が大事」「オリンピックより命と暮らしを守るコロナ対策をと」と訴えるなかで、都民がそこに希望を求める感じになりました。コロナ禍で健康も暮らしも営業も困難になっているときに、まともに対策もとらないで、オリンピックを開くことはまったく逆行しているのではないか、やっぱり中止しかないとグツとおしかえました。候補者のみなさんを先頭に見事な論戦、宣伝を展開されたと思います。今回、私たちは「四つのチェンジ」を政策的に打ち出しましたが、それを生き生きと自分の地域でかみ合った形での都政の転換の必要性を具体的に豊か

ているのですから、それにこたえてくれる曾根はじめを応援しようとかがんばってくれました。私のパンフレットはB5判の二二ページ建てで結構重いのですが、それも立憲の区議さんが二〇〇冊、この地域は私がまきますと全戸に入れてくれました。北区の社民党は立憲に合流しましたので、今は立憲の区議さんも地元で一五〇〇冊配布してくれました。街頭では、元社民党の人は「東京オリンピックがパソナのもうけの対象になっている」と批判して推してくれました。新社会党の方は、「今、世の中おかしくなっている。おかしくなつていいという人はどこに入れてもいいけれど、おかしくなつてほしくない人は曾根に」と、今の政治の流れでいいのかという角度で訴えてくれました。訴え方はいろいろですが、コロナ禍の下で東京オリンピック強行はおかしいし、中止を訴えているのは曾根だけ、と支持を呼びかけてもらいました。

米倉 豊島区は共闘で選挙をたたかうのは初めてだと思います。立憲の方は目玉の街宣はほとんど見に来てくださいました。立憲や無所属の国会議員や区議会議員のみなさんが応援スピーチをしてくださったのは感動しました。立憲の区議の方は私の人柄を紹介してくださりました。無所属の区議の方は、住宅困窮者問題学習会などで一緒になつて、「若い人、女性の議員は必要」という話をされました。

白石 いいですね、楽しそう。聞いている人も、いつ

に語つてさすがだと思います。

今回、「日本共産党対自公都フア」という対決構図をくつきり示してたたかえたことは非常に大きかった。共闘の流れも重要でした。前回の都議選は、自民党はいやだという流れはかなり都民ファーストに行きましたが、そのなかでもわが党は躍進をかちとりました。今回も自民党はいやだという流れはできましたが、「日本共産党対自公都フア」という対決構図をはつきり示してたたかたことが党の議席の前進に結びついたのではないか。共闘を前進させながら党の議席を増やすことができた一番のベースはそういう政治論戦でのリードだし、都政の舞台で、都議団がその役割を現に発揮してきた存在感があったことが非常に大きかったと思います。

条件、立場踏まえ市民と野党の共闘の力を発揮

曾根 立憲の候補の中にも都立病院の独法化をやめるべきだという方が出てきたし、オリンピックの中止・延期で一致してくるなど、変化をつくるうえで、共産党の論戦は非常に大きな役割を果たしたし、共産党の議席が必要だということをはつきり示すことができたと思います。北区は共闘が成立したからなおさらでした。立憲の区議さんなども、世の中はオリンピックはやめてくれということになつても違う感じだなあと思うんじゃないかな。

米倉 いろいろ初めてのことで面白かったですね。

田辺 今回、豊島区のいろいろな道をとおつて各政党のポスターの枚数を数えてみると、告示直前の連名ポスターは、通りによっては米倉さんが一位でした。立憲の方の協力が大きかったですね。

□市民の運動が基礎に

原 都委員会の努力などで共闘が成立し、選挙公報にも立憲の方の名前を出していただきました。ある元民主党の方と話しました。北多摩一区と四区が衆議院小選挙区二〇区ですが、そこに民主党の流れを継ぐ人がいなくなつていいるから、なんとかできないかと思つていた、でもあんまりこだわらなくてもいいかなと思つていた、でもあんまりはつてくれました。清瀬と東久留米の市民連合の共催で私を応援してくれる街頭演説に立憲民主党の参院議員が来てくれることになって、立憲の市議が参加されました。

参院議員さんの受け入れのために来たのでしようが、顔を出してくれたことは、すごくうれしかったですね。共闘というのは、みんなが同じレベルでなくても、それぞれの条件と立場でできることをぎりぎりだけがんばられるかだから、そこはうれしいことだと共有しようと、途中で議論しました。前回は応援してくれた社民党が、今回は早くに

推薦を決めてくれたのですが、推薦書が形だけのものではなくて、知的障がい者の方の都庁への正規採用の問題で、私がおこなった候補者だから応援しますというすばらしいものがありました。社民党の若い市議員さんも心をこめてスピーチしてくださり、心に響きましたし、総支部の人たちも上げて一生懸命、支持拡大をしてくれました。中身で共有して一緒にやろうというふうには社民党のみなさんがやってくださり、胸が熱くなりました。

白石 社民党の若い市議員さんですよね。動画で見て一生懸命のスピーチがグッときました。

原 市民の運動があるからこそ共闘でした。清瀬も、東久留米も市長選と都知事選で共闘が広がってそこがベイスになって、という感じですね。今回は、清瀬の無党派の人たちのがんばりがめざましかったと思います。

曾根 さすがに層が厚いですね。北区も住民運動ってすごく多くて、がんばっている人がたくさんいますが、独立歩でやっているという感じですね。そうした人たちを支えていくことも必要ですね。

白石 定数四の品川のように競い合う選挙区から見ても、それぞれの共闘には励まされました。原さんのところや米倉さんのところに立憲民主党などの方が応援しているのをツイッターなどでみてうれいなあと感じています。ただだけ広がったので公約実現のために都議会のなかでの都立病院の独法化問題などでも市民との連携を強めるとともに、都議会のなかでの野党共闘をさらに発展するようにしていきたいですね。

田辺 共闘した政党には、ほんとうに一生懸命やってくらって、ありがたかったと思います。共産党も小池晃書記局長がいくつかの選挙区で立憲の候補などの応援に立ちました。

政党間でむずかしい問題もあるなかで、候補者が一本化したところで市民運動や市民連合が共闘のステージになってくれていることがすごく大きかった。市民連合のみならずの存在とその人たちの共闘への情熱、そこに市民と野党の共闘に希望があると思ってくれてくれているのはすごく大事だと思っています。

力発揮したSNS、工夫した宣伝

白石 SNSの影響はすごく大きかったですね。ツイッターの告知を見て連日、いろんな人が街頭演説を聴きにきてくれる。

米倉 選挙中に大学で性暴力をなくす運動をしている学生がピラマキにきてくれました。その人も、私がジェンダーとか性暴力問題をやっている議員ということを知ってい

た。

原 立憲の方は、本当に気を使っていて、とにかく一点を大事にやりたいんだということを一生懸命話されました。そのあとにすぐにツイートしてくれて、公的病院を守る大事さを言って、原さんを落とせないとちゃんと書いてくれているんですね。選挙後、あいさつに行きました。が、本当に喜んでくれました。ほんとに共闘って最初から完璧さを求めるのではなくて、一步一步なんだなあって思っています。私が、共闘について一番考えたのは、一生懸命やろうと思っている人たちが、ちゃんと平等にいっしょにステージに立つということです。市民と野党の共同は市民が主役で、そこに野党がそれぞれの立場で共闘するところに意味があるから、絶対にそこに差別とかを持ち込まないで、立憲も出てくるし、社民党も、緑の党もみんなきて、みんながちゃんとスピーチしようと。それはとても大事だったと思っています。

市民運動、市民連合が共闘のステージになる大きさ

白石 原さんが言うように最初から共闘は完璧なものじゃないということですね。逆に力も出てくるし、双方が成長していくというか、すごいなあと。曾根さんや、原さん、米倉さんのところを見ながら野党共闘は大事なんだ、と思ってくれて、すごく励まされました。市民と野党の共闘がこ

て、ツイッターをフォローしてくれていた人です。チラシをまく人を募集と発信していたので、来てくれたんだけれど、チラシだけでなく、ジェンダー平等を実現しようという街頭宣伝には応援のスピーチに来てくれました。会ったことのない人でしたが、ネットで私たちの活動を知ってくれていて、街頭宣伝で、米倉さんと共産党を応援していますとスピーチしてくれました。いきなり地区委員会を訪ねてきて、二回チラシをまいてくれた若い女性もいました。

「痴漢の問題を取り上げてくれてありがとう」といっていただきました。応援に来てくれた人の多くが、ジェンダー平等や性暴力をなくしてほしいと思っている人たちで、それだけこの問題が放置されていて、痛みをかかえている人が多いということを実感し、考えさせられました。仁藤夢乃さんに応援のメッセージをお願したら出てくれて、最終盤には「米倉接戦」というので、応援してほしいとツイートしてくれました。ツイッターの笛美さんは私の痴漢問題の一般質問を字幕付きで動画でつくってくれて、「東京のように痴漢の多い街にこそ、必要な議員さんだ」というメッセージをつけて、最終盤にツイートしてくれました。

曾根 私のツイッターで、たとえば生理の貧困問題で生理用品の全校配置や髪色規制の校則を生徒自身が変えるきっかけになっているというようなことは、私が話題にすることが意外だったのか、ものすごく見られています。私

は、ハッシュタグをつける習慣がまったくなかったのですが、演説をハッシュタグをつけて発信してくれる人がいて、フォローやリツイートがほかの問題は数百の単位ですが、若い人の問題を取り上げたときは万単位になります。ネットの効果はすさまじいと実感しました。

白石 ネットは幅広い層に政策、議席の値打ち、人柄を伝えられる、選挙を重層的にたたかえる大事なツールです。反応も相当ありました。選挙後にうちの事務所内で若者だけで宣伝部をつくりました。選挙中から、ツイッターでも、デザイナーの人からボランテアで手伝いたいとDMがよせられるなど、黨員でない人が手伝いたいという声結構あったので、それなら、と立ち上げました。技術面と素材がないとできないから、撮影班など、そういう面を力をつかり、編集ソフトの使い方を教えたいという人もいて、短いレクチャーをうけたりもしました。そういう若い人がいるので、そういう人たちも黨員になってもいいなと思っています。それから、私もハッシュタグをつけていなかったのですが、高校生からすごい怒られました。

米倉 若い人はハッシュタグで検索しますからね。
白石 私もそういうことを教えられながらやりました。この人は言えばやる人なんだということがみんな分かったみたいで、注文も多くて……。そういう意味では激戦でしたが、そのなかで財産ができた選挙だったと思います。

さおり前衆院議員との対談も企画しましたが、最初は、十分でこれでは全然ダメと言われました。それで、自分が区議に立候補するときに、妻と一緒に回ることがいかに妻には抵抗があったのかということ思い返したり、二回目の選挙の直前に出産した区議の方に、内外から非難の声が集中したのについて、「女性が出産して育児をしながら区議をやるのは何かおかしんだ」と言ったことなども率直に書いて仕上げるとか、何度も議論して書き上げました。あらためて自分の三〇年間の議員生活を見直して、これだというものを相当引っ張り出してもらって、すごいものができました。

それをきっかけに、池内さんが私のHPを見直してくれました。私は都議団で二〇〇〇年ころから一番早くHPをつくっていて、石原都政との論戦などを掲載していました。特に教育問題では、当時の七生養護学校への性教育の介入問題や日の丸・君が代強制と弾圧の問題など二〇〇本くらいアップしていました。池内さんがそれをみつめて、「こんなにすごい財産があるのになんでちゃんと語れなかったんだ」と怒られました。その人の大事などころをすくいあげて出す大切さをあらためて見直すことになりました。

田辺 候補者の魅力と個性とかをグッと前に出すということですね。今回、オンラインやYouTubeで、現場

米倉 私も組織的な活動とともに、ネットも選挙の柱になったと実感しました。今回、位置づけをはっきりさせて、たいへんでしたが体制もつくって、LINEとツイッターで毎日必要な情報を発信しました。思っている以上に見てくれている人がいて、たまたま町であった人がフォローしてくれている人で、「今日はこのあと志位さんですよ」と、志位さんの演説を聴きにきてくれるとか、効果が目に見えてわかりました。

原 SNSは、議員の日常活動で欠かせないものですが、市民選挙にしていくうえでも決定的だと実感しました。ブログに、市民弁士の人たちのスピーチも載せましたが、とても反響がありました。投票日のブログの訪問者が非常に多く、中身を確認して投票しようとしているんだと感じました。今後でもいいねいに発信していきたいです。

□候補者の魅力と個性を知らせる

曾根 チラシやポスターという基本的な宣伝物とあわせて、一つの宣伝物で候補者をいけばうまく表現してくれるものとしてパンフレットを出すことを考えました。ただ、体制も限られていることもあってどうしても作成に時間がかかり、今回は一カ月くらいかかりました。何度も何度も原稿を書き直したりしました。ジェンダー問題でも、北区を含む小選挙区一二区・比例予定候補者でもある池内

に行かなくても演説を全部聴くことができました。これは大きな力を発揮しました。コロナの下で直接、街頭演説などを聴きに行くことができなくても、どこでも視聴できますから、これまでの演説会、街頭演説への参加者くらべでもかなり多くの人が視聴したことになります。選挙の争点や対決の構図を鮮明にするうえでも非常に重要でした。それに、候補者像が光った選挙でもあったので、その生の魅力が直接伝わった。私も事務所でも全部視聴しました。いちいち感動して、「素晴らしい」と一人で拍手していました。

□宣伝などで市民の発想を大事にして

原 宣伝をはじめとして、いろいろな点で市民のみなさんの力はとても大事でした。ジェンダートークをしたとき、清瀬でLGBTQコミュニティの活動をしている青年や、総務委員会でのパートナーシップ制度や性被害、人権問題などの私の質問をずっと傍聴してくれている若い女性に来てもらって話をしてもらったりしました。社会福祉士の方で子ども食堂や、立憲市議のサポートをしている人が、応援してくれました。その人が子育て世代の多い地域を一〇カ所選んで宣伝できるようにしてくれました。「チラシをまきたいから簡単なものでいいから子育て関係でやりたことを書いたチラシをつくって持ってきて」といわれ

たので、ほんとうに簡単なチラシをつくり、チラシを配りながらスピーチをやりました。同時に告示前にZOOMで「都議会議員に何でも聞く会」をセットしてくれて、いろんな人たちが何でも聞いてみようと思って参加したので、何聞かれるかヒヤヒヤでしたが、上手にコーディネートしてくれて、いろんな質問ができました。「党名を変えたらもつと票が伸びるんじゃないかなあ。心配しているの」と善意からの質問も出されました。私は、応援してくれる思いで言ってくれている、その気持ちがうれしいと言って、「この名前でみんなのなかに考えや姿、当たりまえのことをやっているということが浸透していったほうがいい。そこに意味があると思う」とか、いろいろ話をしました。そういう質問や政策的なことなどがいっぱい出ました。こちらからなにかやってみようというのではなく、みんなの発想でどんどんやってみようというのをやってみても大事だったと思います。ゆるやかな勝手連が、独自の視点で私を語る冊子を作ってくれたりもしました。

米倉 今回、共産党がかかげている内容がわかるようにすることはすごく意識しました。プラスターも、コロナや五輪問題だけではなく、性暴力なくそうとか、ツープロック禁止おかし、都立大塚病院を守ろう、とか一〇種類ほどつくりました。それがすごく効いて、「大塚病院まもろう」というプラスターをふり返ってみて、チラシをもらのですが、折り入って作戦で頼まれていないのに、ちゃんと折り入って作戦をやってくれていたわけです。折り入って作戦の力とともに、それをまとめきれないのは、支部の党員が高齢化していて活動がどうしても小さくなっていくからです。総選挙に向けて折り入って作戦はますます重要になります。担い手を広げるとともに、実効性を持たせるためにも党員を増やさないとけないですね。

白石 ネットだけでは勝てないことはつきりわかりました。党員拡大、とくに新入党員が相当すごく活躍してくれました。うちはドライバー不足なのです。候補者カーの運転は免許証をもっていればできる話ではないんです。うちは大いワンボックスカーで軽自動車ではないので、高さがありませんから、候補者としては怖いんですね。車長は私がやっているんで、マイクを持ちながら道を指示していましたが、元タクシー運転手の新入党員の方がものすごく道を知っているので、さっそくレギュラーメンバーに初めてなってもらって大奮闘してくれました。また、選挙直前に入党した八七歳の方が、直筆の手紙を書いて、外に出られないというのでその手紙を支部の人が届けて、五〇人に支持を広げるとか、再開発問題を通じて入党した方は自分のつながりで支持を広げてくれました。宣伝も支持拡大も棄権防止も、支部の先頭に立って励ましてひっぱっていい。やっぱり党員って大事だとつくづく思いました。サポ

ってくれるという感じでした。そういうメインテーマでのほりもつくりました。

曾根 米倉さんのところのプラスターは出来がいいので、そのまま使わせてもらいましたね。

米倉 バナーとか宣伝グッズとか、ネットでも一分動画を最終的につくりました。

都議選の教訓を生かして総選挙での活動の飛躍を

曾根 折り入って作戦は非常に大事で、やったらそれだけ広がることはまちがいありません。選挙中に、候補者カーにかけよってきて、「だれだれさんに頼まれたから入れておいたから」と、僕に報告に来る人が結構いました。なんでみんな候補者カーにくるのかなと思ったら、折り入って作戦で担い手は広がっていたのですが、きちんと集約できていないから、直接私に報告していたわけです。私も、自分の団地のエレベーターに乗ったらいきなり「曾根さん、宣伝が足りないわよ」って言われました。後援会のつながりがある方で、下のポストに選挙公報が入ったとき、広報をもって一緒に上がる若い女性がいたから、「うちの団地にこの候補者がいるの。知ってる？」と聞いたら、「そうなんですか」と知らなかったから、「この人よ、いい人だから入れてあげてよって頼んどいたわよ」と言われた

ーターとともに、ここをいかにつくれるかということとは、どんな選挙でも勝てる選挙にするにはそこだとあらためて思っています。

米倉 都議選を通して、今の政治はひどい、変えたいと思、「自分も何かやりたい」「力になれることはないか」と思っている人がたくさんいるのだと実感しました。もつと党の姿や考えを示して、たくさんの人とあたらしい政治をつくれる時代だと思います。こうした方々と、力を合わせて政権交代をめざしたいです。

原 都議選でものごとくがんばった市民のみなさんは、今度は総選挙で政治の流れを変えようという気持ちになっています。小選挙区では宮本徹さんが候補者です。さまざまな問題で先頭にたつて解決され、実績も抜群で信頼も高いので、市民のみなさんは何としても宮本さんを送りだそうとされています。日本共産党の躍進を実現するためには、比例で日本共産党と書いてもらおうための努力がとても大切だと思います。都議選でがんばっていたのみなさんにその点でも理解してもらえようようにきちんとお話しして担い手を広げていくことが課題だと思っています。

□一丸となって総選挙で「比例一一〇万票以上・得票率二〇％」実現へ

田辺 期待をよせてくれたみなさんは、コロナやオリ

ピックの問題、それぞれの都政の課題で共産党にがんばってほしい、いっしょに動かしていきたいという思いとあわせて、自民党、公明党の政治はどうしても変えたいという思いが絶対にある。都議選が総選挙につながっていく選挙だという思いからいろんな力を発揮してくれた。どうしてもその思いに応えないといけません。みんなで一丸となって比例一〇万票実現の流れをつくらなければなりません。

都議選では候補者の値打ちと同時に党の値打ちも相当示せたと思います。共闘を前進させながら、議席を増やせたのは、そういう党の値打ちを広げたからこそです。それを確信にしながらさらに磨き上げていきたい。そのために、党の自力をつくる必要があります。新しい人が加われれば間違いなく活力は高まっています。新しい人が加わってくれた人みんなの力で総選挙での前進への流れをどうつくるのかということがあります。協力してくれた人、支持をしてくれた人すべてにお礼して総選挙に向けて一緒にがんばりましょうと呼びかけることが必要です。

私たちが政治攻勢をかけるなかで共闘を前進させてきたわけですから、総選挙でも日本共産党が元気ががんばることが共闘の前進、野党連合政権につながると思いますので、日本共産党の躍進を実現するために全力をつくす決意です。

止が広がるなど、政治を動かしました。日本共産党の議席増とともに、中止・延期を訴えた立憲民主党が一議席に前進したように、今夏の五輪はやめるべき」という首都の有権者の民意が示されたことも重要です。

新しい党都議団は、これらの民意や菅政権・小池都政への批判の強まりを踏まえ、今夏の五輪中止を求め、ただちに行動を起こします。都議会野党第一党として都議会他党派への働きかけや国政との連携もすすめます。

また、コロナ「封じ込め」を目標にすえ、ワクチンの迅速接種と一体に大規模なPCR検査、十分な補償と生活支援、医療機関に対する減収補てんの実現を訴え、大きな共感が寄せられました。

同時に、「四つのチェンジ」(1)ケアに手厚い都政へ―都立・公社病院の独法化中止、(2)大企業の利益優先の「稼ぐ東京」でなく、福祉・暮らし第一の都政へ、(3)ジェンダー平等・個人の尊厳を大切にす都政へ、(4)米軍の横暴勝手をやめさせ、平和な東京を掲げ、それぞれの選挙区での焦点の課題と結びつけて押し出したことは、広範な無党派層からの注目や期待を広げました。各紙の出口調査で、無党派層の中の日本共産党の支持が都民ファーストにつぐ第二党と報じられたことは重要です。

一、自民党は、公明党とあわせて過半数の確保に届かず、四月二五日投票の三つの国政選挙での自公敗北に続き、菅政権にとって「大打撃」となり、国民の自公政治への深い怒りと怨嗟の声の広がりが顕著になりました。都民ファースト

東京都議選の結果について

二〇二二年七月六日 日本共産党東京都委員会

一、四日に投票がおこなわれた都議会議員選挙で、日本共産党は、現有一八議席を確保し、一九議席に前進する大きな勝利をかちとりました。二入区の文京区・日野市で新しい議席を獲得しました。当選者の七四％(二四人)が女性であり、女性議員数では都議会第一党になりました。

日本共産党は、比較可能な選挙区で、得票率を前回の一四・八三％から一五・七九％に増やし、すべての選挙区で奮闘しました。今回の勝利は、二〇一三年、二〇一七年に続く三回連続であり、革新都政時代以来の半世紀ぶりの歴史的快挙です。

コロナ禍の中の選挙戦において、日本共産党をご支持いただいた都民のみなさん、わが党の前進のために、昼夜わかつたご協力くださった全国・東京の支持者、「赤旗」「東京民報」読者、後援会員、党員のみなさんに心からの敬意と感謝を表明します。本当にありがとうございました。

一、日本共産党は、「五輪より命を大切にする政治を」「五輪を中止し、コロナ対策に力の集中を」と訴えぬき、強い共感が寄せられました。この訴えが力を発揮し、東京都のパブリックビューイングの中止や児童・生徒の五輪観戦動員の中は、議席を大きく後退させ、第二党になりました。

一、今回、市民と野党の共闘は重要な前進をきりひらきました。日本共産党と立憲民主党などは、一人区、二人区、一部の三人区で候補者の調整を行いました。文京区、豊島区、北区、日野市、北多摩四区で日本共産党候補が勝利し、渋谷区、中野区、立川市、武蔵野市、三鷹市、小金井市、小平市、北多摩二区で、立憲民主党や生活者ネット、無所属の候補が勝利しました。社民党、新社会党、緑の党などの選挙協力も広がりました。お互いに支援して勝利をかちとったことは、自民党を追いつめる力を発揮したものととして、来たる総選挙での勝利・前進につながる重要な結果です。

一、私たちは、選挙戦で訴えた公約、政策の実現のために、草の根からの要求実現のたたかいをいっそう強化し、新しい都議会での奮闘とともに、目前に迫った総選挙での日本共産党の躍進と市民と野党の共闘のさらなる前進・勝利のために全力を尽くします。

首都・東京において、総選挙で「一一〇万票以上・得票率二〇％」を実現し、比例代表選挙で三議席を確保し、さらに四議席獲得のために全力をあげるとともに、東京二区・二〇区をはじめ小選挙区での党候補者の勝利をめざし、とりくみの新たな前進を開始する決意です。

総選挙での政権交代・野党連合政権実現で、希望ある新しい政治を切りひらくために、ひきつづきお力をおかしたいだくことを心から訴えます。